

令和8年2月25日

養父市議会議長 谷 垣 満 様

関宮小さな拠点（仮称）整備等調査特別委員会
委員長 西 垣 司

関宮小さな拠点（仮称）整備等調査特別委員会中間報告書

本特別委員会において調査したことを、次のとおり中間報告する。

記

1 調査年月日 令和8年1月16日（金）

2 調査事項

（1）事業の進捗状況について

ア 2期工事を含めた建設工事の進捗について

イ サウンディング調査の結果と運営管理体制について

（2）今後のスケジュールについて

ア 建設工事について

イ 運営内容について

（3）事業費の状況について

3 調査内容

現在建設中である関宮小さな拠点（仮称）の建設現場において建設状況を視察した後、市民生活部関宮小さな拠点整備推進室から説明を受け、調査を行った。

（1）第1期工事の進捗状況と今後の見通し

令和7年12月末時点での工事進捗率は52%であり、予定の50.2%を上回っている。正面駐車場の造成工事は概ね終わっており、今後は舗装の路盤工などを行う予定である。建築工事は、サッシ、外壁、設備関係、間仕切りなどを施工中であり、外壁工事が終わり次第、屋根仕舞いを行う予定である。機械・設備工事については内部配管などの仕込み、また電気設備工事では配線やエアコンの設置を実施中である。資材の発注は令和7年12

月までにすべて終了しており、随時納品と設置が行われている。当初懸念されていたキュービクル（変圧器）については令和8年2月下旬には納品される見込みとなり、工程上の大きな懸念が解消された。

検査（特に消防検査）を受けるまで約2か月となる中で、現在25人程度の作業員が現場に入り、全工種の業者が工事を進めている。

（2）第2期工事の計画とスケジュール

第2期工事は宿泊棟、売店、薬局、歯科、福祉関係の施設を対象とする。令和8年度に入り4月から基本設計、実施設計、変更確認申請など順次行い、8月から9月にかけて一般競争入札を行い、工事着手へと計画している。令和9年3月末の完成、4月の供用開始を目指す。

（3）運営管理体制に関するサウンディング調査の状況

サウンディング調査は現在も継続中であり、事業の収益性の観点から、民間事業者の関心は低いことが明らかになっている。

当初検討していたコンセッション方式（施設管理と運営管理の一括委託）は、現時点では実現が難しいと認識しており、今後は、運営を3つの機能（施設維持管理、入居者管理、にぎわい管理）に分けて検討を進める。

施設維持管理は、施設の維持に特化した業務で、拠点だけでなく、周辺施設も含めて一括管理するものであり、指定管理、または直営で行うことも考えられる。

入居者管理は、事業所の家賃、賃貸借管理、光熱水費、契約管理などである。

にぎわい管理は、最も大切な機能であり、拠点施設のみならず周辺のコミュニティスポーツセンター、健康増進施設、農村広場などを活用したにぎわい創出を目指す。

これら運営管理体制は、今年度中に方向性を定め、調査の結果をもとに公募、選定（プロポーザル方式の見込み）を行い、9月末には事業者の選定を終了する予定である。

（4）事業の財源内訳

本事業（第1期・第2期）の事業予算合計額は、17億9,890万円となっており、財源の内訳は、第2世代交付金5億8,757万5千円、先導的官民連携事業補助金1,157万2千円、合併特例債5億5,340万円、その他財源として公共施設等整備基金6億4,635万3千円である。

(5) 施設運営に関する課題共有と活性化のための運営管理体制

市民、地域自治組織、今後選定される運営事業者、市などの関係者が定期的に集まり、課題を共有し効果的な運営について協議する場を立ち上げることを想定している。市民が単なる利用者としてではなく、自らここで何かしたいと思えるような動機づけにつながるよう、市民の自発的な活動を促し、運営協議を進めていく方針である。

4 まとめ

本事業は、支援業務にCM方式を導入し、施工者選定においてはECI方式を取り入れている。JV（共同企業体）からの品質を落とさず安価で、かつ施工性も向上する屋根材の変更提案を設計者とCMR（コンストラクション・マネージャー）が構造的な問題がないことを検討して採用するなど、工期の短縮と共に予算的な成果もあげている。

市民生活部関宮小さな拠点整備推進室との質疑応答で、建設工事については概ね計画通りの進捗が認められた。しかしながら最大の課題は、管理運営と事業者の確定である。供用後に市民や訪れる人々の利便性、地域の交流やにぎわいの向上など、人口がさらに減少しても多くの人々の居場所として、施設の安定的な運営が望まれる。市内外の子どもたちや、子育て中の家族が天候を気にせず、いつでも集い、遊べる場所として、高齢者にとっても憩いの場所として、しっかりと機能していくものでなくてはならない。また、市民説明会を行うことで、施設の個性や特徴を多くの方に知っていただき、関宮地域に限らず、養父市全体、但馬地域に向けてもオープンな施設として、多様な人々に対してウエルカムな施設となることを望むものである。

本特別委員会は、本事業は合併後有数の大規模事業であり、費用対効果など長期的な検証が求められることから、今後の動向を注視し、継続して調査を行っていく。